

団塊世代・元気高齢者地域活性化推進協議会（第8回）議論要旨

＜議題＞

- 1 最終報告書（素案）について
- 2 イベントについて
- 3 その他

＜主な意見＞

- 1 最終報告書（素案）について

- （表題について）中身をあらわすサブタイトルが必要ではないか。
- （地域で活躍する多様な団体・組織の存在）団塊世代の多くは当面は働きたいという希望が高いことや、生活不安も結構高まっていることから、シルバー人材センターや新しい就労の領域としてのコミュニティビジネスといった点も、記載が必要なのではないか。
- （50歳代と60歳以上の地域活動への興味について）50歳代と比べてみると、町内会・自治会活動や地域まちづくりが60歳以上だと上位に上がっている。その動きをもう少し図を強調するとか、戦略を示唆するような表し方をしたほうが、納得して読んでもらえるのではないか。
- （団塊の世代や元気な高齢者の社会参加に対する状況に関して）所属欲求が満たされていないという状況があるのではないか。地域の担い手としてどういうグループのどういう役割ですということが言えると、所属できているという満足につながり、生き生きと活動できるという状況が生まれるのではないか。
- （新しい高齢者像について）従来は下が上を支えるのが普通であったが、超高齢社会では同じ世代が同じものを支え合うという横の線に考え方を変えていかなくてはいけないのではないか。その点をうたって新しい考え方、概念を植えつけるという発信なら、新しい高齢者像と言えるのではないか。

- （第2・3章に関して）第2・3章がこの報告書の枠組みを提示する重要な部分なので、もう少しボリュームや丁寧な説明が必要ではないか。ボリュームが出ないなら、2・3章を1つの章として整理し、4・5章に入っていくという構成もあるのではないか。
- （行政の基盤整備について）インキュベーションやコミュニティビジネスなどは、場所をつくるというだけで数百万円かかる。そのため、1つは行政が信用保証的なもののバックボーンになる仕組みが重要である。また、大家・持ち主に対して、固定資産税を免除といった、税制の仕組みをダイナミックにつくらないと、居場所づくりや基盤整備は進まないのではないかと。持続可能な仕組みをどうつくるかが、行政の制度設計の大事なところ。
- （コーディネート機能の充実について）広域と小地域ではコーディネートの役割が異なるため、整理して記載を行うべき。東京の場合は、広域コーディネートとしての専門職は全国に比べまだ整っているほうだと思うが、地域のおせっかい焼きのほうは少ないので、その辺を重点に置いて記載すべきである。
- （企業との連携について）日本は世界第3位のGDPの国で、企業はパワーを非常に持っている。一方で、日本のNPOは脆弱である。両者をマッチングしていくのは潜在的な可能性を秘めており、非常に大事である。

2 イベントについて

- シンポジウムは、参加者の方に簡単なアンケートを配って、レスポンスを確認するといいいではないか。

3 その他（サイトの運営について）

- 一般の人は東京都のホームページを、普通開かないので、東京都のホームページ上に設置しても、アクセス数が伸びないのではないか。
- ヤフーとかグーグルとかという検索エンジンでよく使われるところに「高齢者」とか「地域活動」とかを入れると、上のほうに出てくるようにしておいたほうがいい。